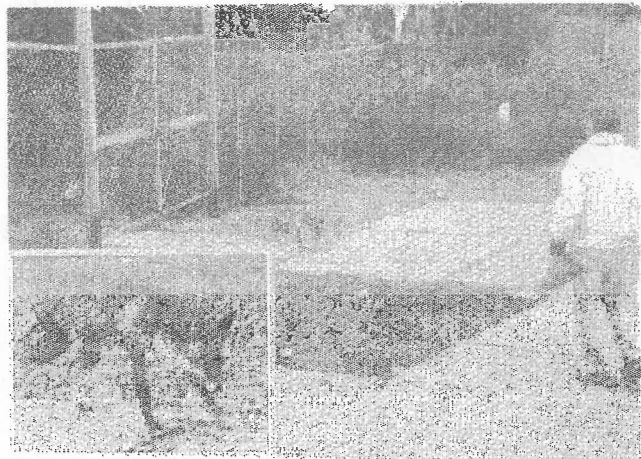


ふきた さと 吹田の郷

発行/NPO法人すいた市民環境会議 代表/小田忠文 年会費/正会員(個人・団体)1000円、正会員(法人)10,000円、購読会員1000円、賛助会員10,000円
振込先/00980-3-28845 NPO法人すいた市民環境会議事務局/〒564-0032大阪府吹田市内本町2丁目18-8/TEL & FAX 06-6319-0630 小田(午後6時以降)
ホームページ <http://www.sutv.zaq.ne.jp/sskk/sskk-top.htm> 編集長/古谷啓伸

いつまで続くのか 吹田市の野生のキツネの穏やかな生活

..... 4頁



千里丘で未明に茂みから出て餌をくわえるキツネ
(撮影・白川治吉さん)

← 豊中市婦人会館跡の北側に立つ交通標識

街路樹調査班募集

..... 17頁

30年前に高町池緑地で大規模な造成工事

..... 14頁

環境クイズ10問

..... 6頁

理事会

毎月第3土曜日に市民会館で1時30分から行なっています。理事でない方もお気軽にご参加ください。

NPO法人として登記を完了

第2回特定非営利活動法人すいた市民環境会議総会報告

中村小夜子・事務局長

5月12日(土)に1時から市民会館大集会室で行われました。出席者は正会員41名、講読会員2名、委任状は54名でした。

- | | | |
|----|---|------------|
| 議案 | 1 | 2000年度事業報告 |
| | 2 | 2000年度収支決算 |
| | 3 | 2001年度事業計画 |
| | 4 | 2001年度収支予算 |
| | 5 | 理事・監事選出 |

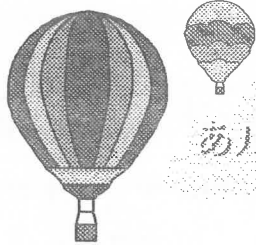


すべて全員一致で承認・可決しました。新理事の任期は7月1日に始まります。会長と副会長の選出は7月に開催する理事会でおこないます。

総会終了後の懇親会では「千里の四季」のスライド・ショー(撮影と映写・宮川浩樹氏)、吹田ケーブルテレビジョンが放送した吹田のキツネのビデオ鑑賞、松岡要三・まちなみ委員長によるあろっく吹田/観光マップの紹介が行われました。とくに「千里の四季」は定点撮影した写真が季節の移り変わりをファンタジックに見せてくれて感動しました。

昨年度の大きな課題はNPO法人への移行で、3月9日に法人登記を完了しました。今回の総会までの主な手続きをまとめました。

- | | | |
|-------|-----------|-----------------------------|
| 2000年 | 5月21日(日) | 旧・すいた市民環境会議第4回総会でNPO法人登録を承認 |
| | 6月 | NPO法人化に向けて定款作成などの準備会の発足 |
| | 11月15日(水) | NPO設立説明会 |
| | 11月21日(火) | 大阪府にNPO法人の認定申請 |
| | 11月25日(土) | NPO設立総会で定款などを全員一致で可決 |
| 2001年 | 2月23日(金) | 府庁でのNPO法人授与式に3人が出席。 |
| | 3月6日(火) | 法務局にNPO法人登記の手続きをおこなう。 |
| | 3月9日(金) | 法務局で法人登記を完了 |
| | 3月17日(土) | NPO法人すいた市民環境会議の第1回目の理事会を開催。 |
| | 5月12日(日) | 第2回特定非営利活動法人すいた市民環境会議総会 |



吉志部コース

満開のコバノミツバツツジ

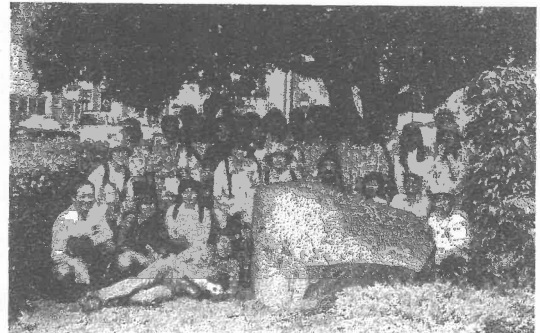
古谷啓伸（岸部北）

4月14日（土）の午前にJR岸辺駅から佐井寺バス停留所まで4kmを歩いた。参加者は28人で、会員は14人だった。

紫金山はコバノミツバツツジの花の紫色が地名の語源になった。今回はそのコバノミツバツツジの満開に合わせた日程だった。幸い好天で、紫金山公園で花をめでることができた。どんぐりなどの高木に押されて勢いがなくなっていたコバノミツバツツジを再生させるために、3年前から市民ボランティアグループが間伐作業をしており、その成果が昨春から現れてきている。

紫金山公園の北側ではあろく吹田の推薦コースからはずれ、マンションの間を五月が丘バス停留所へと抜けて、300m遠回りをした。あろく吹田の編集後に分かったことだが、マンションの間の五月が丘専用1号線緑道（長さ200m、幅10m）がたいへんきれいなため、参加者はこのコース変更を納得した。車道を1車線であるかのように狭くしてまで緑道を広く確保した道である。

吉志部神社の参道口で



千里丘コース参加者

千里丘コース

緑地や水田が残る

浅田都司男（千里丘中）

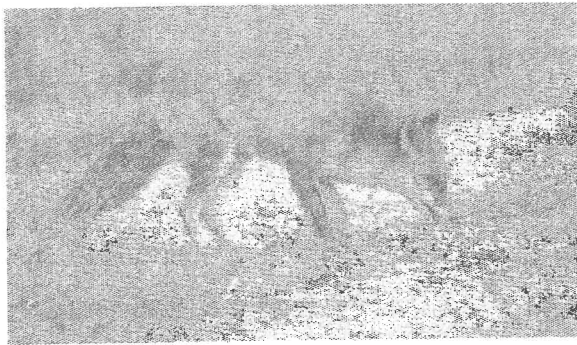
6月2日（土）、梅雨間近のさわやかな晴天で参加者31名。起伏の多いコースに一汗かいたところで、マンションの建築現場に着いた。すいた市民環境会議の会員である広村知幸さんはこの建設渉外担当者であり、散策にも参加していたので、いかに自然の破壊を最小限に押さえて良質の住宅を建設するかの苦労話を聞いた。

千里丘稲荷神社の100段をこえる石段で2度目の汗をかく。

新芦屋中央公園はスズメバチの巣があるとの情報で、公園に入らなかった。

光福寺（茨木市宇野辺2丁目）の近くの広場でチンチン地蔵と宇野辺の地名の由来を秋山こずえさんから聞いた。その後、亀岡街道に建つ2基の道標を見ながら解散地点のモノレール宇野辺駅に着いた。

社有地にマンションの建設、交通量の増加などの問題をかかえながらもまだ緑地や水田が残っていて、「JR以南とはやっぱりちがう」との言葉が出るなごやかな散策だった。



撮影・白川治吉さん

餌をくわえようとするキツネ 昨年8月撮影

市内に生息するキツネの保護を吹田自然観察会と共に市に働きかけています。観察会が吹田市に2001年1月10日に提出した野生キツネの保護についての要望書(抜粋)はつぎのとおりです。

吹田市内に野生のキツネが生息しています。場所は、千里丘の緑地帯です。親子で3頭ほどが付近住民により何回も確認されています。4~5年前より継続して目撃され、写真も撮影されており、生息は確実です。

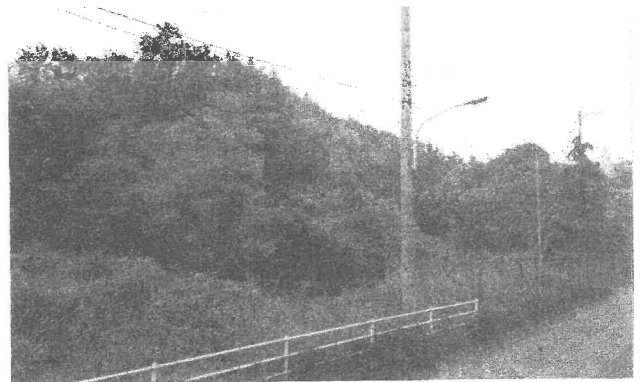
野生のキツネ(ネコ目/イヌ科)は、大阪府では大変少なくなっています。大阪府の野生動植物の調査で、「準絶滅危惧」(存続基盤が脆弱な種)としてキツネがあげられています。大阪自然史博物館学芸員の和田岳氏によると、大阪自然史博物館に寄せられている府下のキツネの確認データは5件しかありません。吹田市のような都市化が進んだ地域では大変貴重な存在です。

吹田市では、「環境基本計画」(1998年)で「身近な動植物の保全」の目標として「人の心を和ませ、感性を豊かにしてくれる鳥や蝶などいきものの豊かな生息を確保すること」。その基本的施策として「市内に生息する鳥類や魚類など生きものの保護」「営巣地や、採餌・繁殖の環境を確保します。」

「市内の動植物の生息・生育状況調査の実施」さらには、「自然の仕組みを活用し、生きものの生息に配慮した空間の確保」をあげています。

吹田市に生息する、野生のキツネの保護とその生息に配慮した空間の確保に向け、以下の要望をいたします。

1. 吹田市として野生のキツネの生息確認調査を実施して下さい。
2. 吹田市内で野生のキツネが生息し続けることができるようにするために、動物の専門家と協議しつつ、その営巣地や、採餌・繁殖の環境を確保して下さい。



キツネが棲む茂み

それでも、いつか押し寄せる開発の波

吹田市から1月31日につぎの回答が寄せられました。

- 1 キツネの生息確認につきましては、現在、専門的知識を有する社団法人大阪自然環境保全協会と協議中です。
- 2 キツネの生息場所の確保につきましては、要望書中の生息場所は民有地であり、その用途の決定に市としての強制力を発することは困難ですが、キツネが準絶滅危惧種であることに鑑み、可能性の道を検討してまいりたいと考えています。

住民から餌をもらって生き延びてきた

吹田のキツネが生息する場所の茂みはわずかに1600㎡くらいです。餌は付近の住民が与えるちくわやとりのカラ揚げなどで、未明に餌を取りに姿を現わします。姿を現わすとき、餌をくわえるとき、茂みに入り込むときの用心深く周囲を見回る目は野性の目です。キツネはネズミや野ウサギなどを餌としますから、ここでは人が餌を与えなければ餓死に至ると考えられます。

紫雲寺(山田東)の天井画に描かれる鳥獣は千里丘陵に生息したものだと言われていますが、この画にキツネ・タヌキは描かれませんでした。しかし、昭和時代の戦前に垂水町2丁目20辺りの竹藪にキツネがいたと長老が話してくれました。第二中学校(岸部北)の東側の道はキツネ坂と呼ばれて、キツネにまつわる民話も残っています。

1964年(昭和39)に名神高速道路が開通して千里丘のキツネは北部との接触が断ち切



島熊山山頂付近、中央に交通標識が小さく見える

られ、その後は開発、再開発の波に追いつめられています。

豊中市の緑地にはタヌキが生息

豊中市の千里緑地にタヌキが棲んでいることが毎日新聞で報じられました(2000年11月29日付けと12月23日付け)。島熊山のある緑地が棲息地で、タヌキと思われる糞を発見することがあります。タヌキが交通事故にあうので、交通標識が立っています。標高112mの島熊山山頂は閉鎖された市立婦人会館の裏手あたりです(新千里西町2丁目1番地)。

大阪府下でキツネは準絶滅危惧に該当しているとのことですが、現在も池田市から高槻市にかけてのゴルフ場でキツネやタヌキの生息を物語る情報にこと欠きません。ゴルフ場で構えて遠くホールの方に目をやると、キツネがバカにしたようにゴルフアールを見ていることがまれにあります。(誌)



撮影・白川治吉さん

千里丘のキツネ

「あろく吹田」冊子の希望者へ

20号でお知らせしましたように観光マップ「あろく吹田」がすいた市民環境会議の企画・編集で完成しました。同時に吹田郷土史研究会編集の「すいた歴史散歩」も完成し、内容が補完しあっています。あろく吹田(130g)と吹田の歴史散歩冊子(160g)は市役所と吹田市立博物館で無料で希望者に配布しています。郵送の希望者は切手390円分を下記までお送りください。両方を郵送します。

松岡 要三 郵便番号565-0851 大阪府吹田市千里山西4-39 C-608

～ 環境対応適正検査 ～

あなたも挑戦してみてください

6月9日(土)にメイシアターで環境教育フェアが催され、すいた市民環境会議もブースを出して、あろく吹田を材料に作製したパネルを展示しました。同時に参加者を対象に会場を巡りながら環境クイズに答えていただく環境フェア・クイズ・ラリーもおこないました。出題は10問です。正解は9頁に掲載します。事例会場では、メダカの田んぼの活動を小田会長が発表しました。

A このマークは再生資源を積極的に利用した商品や、省エネルギー効果に大きい影響を与える商品につけられます。マークの呼称を次から選んでください。

1. クオリティ・マーク
2. エコマーク
3. 容器リサイクル・マーク
4. JASマーク
5. 製造物責任マーク(PLマーク)



B このマークは地球環境を守るためにリサイクルをお願いするもので、にある文字が記されています。それを次から選んでください。

1. グリーンマーク
2. クオリテ
3. あきかんリサイクル
4. PET
5. JAS
6. 牛乳パック使用



C 吹田市は家庭がごみを出すとき5種分別をお願いしています。資源ごみの箱につぎの(あ)～(く)が入っていました。資源ごみの箱にいれてほしくないものの組合せは(小型複雑ごみに入れてほしいものは)、

- ガラス回収箱に
- (あ) ガラスコップ
 - (い) 化粧乳液の入っていたガラス容器
 - (う) 酒が入っていた陶器製容器
 - (え) ワインが入っていたガラス容器
 - (お) 焼肉たれの入っていたガラス容器
 - (か) オロナミンCの容器
 - (き) ガラス容器を袋に入れて箱に入れてある

金属回収箱に (く) プラスチック製取っ手のついたフライパン

- 回答群**
1. あ、う
 2. う、く
 3. あ、お、く
 4. あ、い、う、き
 5. どれも間違い(正解は、)

D 法律の改正で、今年4月から不用の大型ゴミの一部を市が回収しないで、消費者が小売店に引き取ってもらうことになりました。その大型ゴミとは…、

1. 自転車、テレビ、冷蔵庫、洗濯機の4種
2. エアコン、テレビ、冷蔵庫、洗濯機の4種
3. ふとん、エアコン、テレビ、冷蔵庫、洗濯機の5種
4. 自転車、ふとん、エアコン、テレビ、冷蔵庫、洗濯機の6種

E ツバメは春から夏に日本で子育てをします。吹田のツバメの巣は、どんなところに多いでしょうか。

1. 万博のような、緑の多い林の中
2. 家の軒先でも、静かな人があまり近づかないところ
3. 人の出入りの多いマンション1階の玄関や人家の入口の軒下など

F 吹田市内にもホテルが乱舞する所があります。その場所は…

1. 神崎川と安威川の合流付近
2. 釈迦ヶ池周辺(岸部北～五月が丘南)
3. 高町池周辺(高野台～山田西)

G 吹田市内に野生のキツネがすんでいますか。

1. ニュータウンの工事が始まった1960年(昭和35年)頃まですんでいた。
2. 万国博覧会が開催された1970年(昭和45年)頃まですんでいた。
3. 現在もキツネが目撃され、写真にも撮られている。

H 吹田には、幹回りが2m以上の木が420本もあることがわかっています。その中で一番多くある木はどれでしょう。

1. マツ
2. イチョウ
3. ポプラ
4. サクラ
5. クスノキ

I 「すいた」の名前のついた植物があります。どれでしょう。

1. すいたクワイ
2. すいたミカン
3. すいたダイコン
4. すいたゴボウ
5. すいたタンポポ

J 吹田市都市景観賞とは、地域の特性をいかし、個性と魅力にあふれる都市景観に貢献している建物や活動を表彰しようとするものです。昨年度にこの特別賞を受賞した景観は…

1. アサヒビール吹田工場
2. 山田旧集落
3. 北千里のビブレ

難病児の入院に付き添う親のために宿泊の提供をお願い

吹田市にNPO法人が次々と誕生しています。本誌は他のNPOを紹介していきたいと思っています。今号はサポートハウス・親の会の紹介を兼ねて、会からみなさんへのお願い文を掲載します。

子供が難病になると、家族はどんなに遠方でも専門病院で治療を受けさせようとしてしまふ。例えば東京聖テモテ教会内にある「ぶどうの家」では、自宅から遠く離れた地で子供たちが治療に専念出来るよう、付き添いの母親に部屋を提供しています。その大阪版といえるものが「サポートハウス・親の会」です。

12年前に「心臓病児・親の会」として発足した同会は、主に吹田市の国立循環器病センターと阪大病院に入院する患者の付き添い家族のために、宿泊所の管理と運営を行なっています。代表の梶原早千枝さん自身、今は亡きお子さんの治療のために循環器病センターに通われた体験を持っています。面会時間が終わった後の暗い病院のロビーで、眠れぬ夜を過ごす母親たちを見て、ハウスの必要性を痛感されました。子供たちの入院生活出来るだけ平穏なものにするには、母親が経済的にも精神的にも安心して付き添える状態にすることが大切。母

親の笑顔こそが何よりの「薬」なのです。開設以来、利用者は延べ二万四千人を超えました。

現在、吹田市千里地区に5部屋を確保していますが、希望者が多く、順番待ちの状態が続いています。母親たちは午前中に子供の好きな物をお弁当箱に詰めて1時からの面会時間に合わせて部屋を後にします。最近では子供の患者ばかりでなく移植手術の待機者もおられ、滞在日数が長くなっています。「サポートハウス」では滞在施設用の部屋を低料金で貸して下さる方を探しています。また遠方の自宅へ電話連絡するために、未使用のテレホンカードの提供も募っています。その他様々な形でサポートも募集中で、支援の輪が広がることを期待します。

「サポートハウス・親の会」
〒564-0063 吹田市江坂町2-4-25-501
電話とFAX

06-4861-1679

生き物委員会より

公園の生き物調査が終わりました

昨年度は吹田市の委託を受け、市内四公園の生き物調査をしました。調査した公園は**千里北公園・紫金山公園・片山公園・中の島公園**で、**野鳥・昆虫・樹木・草本**(雑草と呼ばれている草)の身近に観察できる生き物を選びました。くまなく調査したわけではありませんが、公園の生き物についておおよその傾向がつかめました。

生き物は**草本・樹木→昆虫→野鳥**の「生態ピラミッド」と呼ばれている食物連鎖で繋がっていますが、今回の調査結果でそれを確認することができました。即ち、野鳥や昆虫は餌となる昆虫や植物の種類や量に影響されており、草本・樹木が多かった**紫金山公園・千里北公園**に昆虫・野鳥の種類が多く見られました。

千里北公園には広い草はらがありバッタの仲間、池では野鳥が多く、**紫金山公園**では林のふち(林縁部)にすむ昆虫が多く見られ、野鳥も多かったです。また、**片山公園**は隣接する神社の樹木や、民有地の草むら、アサヒビールの庭などと一体になって昆虫・野鳥に利用されていること、更に**中の島公園**は運動施設のための公園ですが、僅かな面積であっても人があまり利用しない場所に昆虫がいて渡りの鳥が利用していました。

このように、都市の中にある公園であっても、昆虫や野鳥が好む樹木や草を植えたり、少しでも草刈りをあまりしない場所や、人が利用しにくいスペースを造ることで、そこにすむ生き物の種が変わり多くすることができる、即ち、生き物の多様性を確保することができることがわかりました。

生き物の多い公園は、人々に安らぎを与えてくれる公園でもあると思われることから、今後、公園の目的を何におくか、考え直さなくてはいけないのかもしれない。

以上の調査結果は、2枚組のパンフレットにしました。可愛いイラスト入りで、1枚に2つの公園をとりあげていますが、「どちらも表」になるよう工夫しました。会報誌と共に会員の皆様にお届けしたかったのですが、予算の都合で市への納入分を含め1000部しか印刷できなかったことから、残念ながらできませんでした。

ご入用の方は「吹田市地球環境課」、又は南千里にある「緑化公園室」に問い合わせてください。

最後になりましたが、調査にご協力頂きありがとうございました。

環境フェア・クイズ・ラリー正解と解説

設問は6頁に掲載した。()内はフェア当日の回答者48名の正解率%を示す(回答用紙回収率45%)。10問全体の正解率は59%だった。

A=2 (81) エコマークはグリーン商品と呼ばれる再生紙などについている。グリーン商品とは再生資源を積極的に活用したり、省エネルギー効果の大きい機械類などの環境に配慮した商品のことで、日本では日本環境協会が認定する。

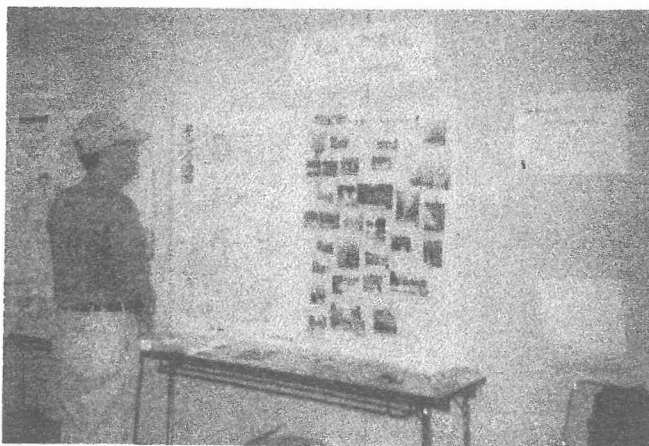
B=4 (38) ペットボトルに見られるこのマークに気づく人が意外と少なく、あきかんリサイクルと回答した人が目立った。

数字1はPET(ポリエチレンテレフタレート)を識別する。数字2はHDPE(高密度ポリエチレン)、3はPVC(ポリ塩化ビニル)、4はLDPE(低密度ポリエチレン)、5はPP(ポリプロピレン)、6はPS(ポリスチレン)を示す。プラスチック工業連盟が認定する。

C=4 (38) ガラスを資源ごみとして回収する場合、元素組成の一定したものを集めることが一番の課題になる。食品容器に使われるガラスは組成が一定であるため、食品容器のガラスだけを資源ごみの対象にしている。ガラスコップなどの食器や化粧品容器は同じガラスでも組成がさまざまなので分別がむづかしく、資源の対象にしている。なお、色を問わない。

ガラスは破碎してカレット(cullet)と称するガラスくずにして再使用される。

ガラスの資源化で特に市民にお願いしたいことは、油類はカレットの価値の低下になるので洗浄してほしい。工場は汚れのひどい容器を洗い、ガラス以外の材料も除去している。容器に張られている紙も好まないが、残ってもカレットの価値を落とさない。



すいた市民環境会議のブース

金属を資源ごみとして回収する場合、工場で破碎して金属部分だけを回収する。材質の異なる取っ手などのついたフライパンも工場で分離除去するので、資源ごみの対象になる。

金属缶容器は少々の油類が付着していても品質に影響しないが、工場現場のすごい異臭の原因になっているので、洗浄をしていただけるとありがたい。

小型複雑ゴミも工場で金属だけを取り出して回収している。

ガラスと金属の資源ごみを袋に入れて出す人がいるが、工場での作業性が著しく低下するので、袋から出して回収箱に直接入れてほしい。

5種分別で資源ごみを出すとき、市民が迷いながら分別していることが正解率の低さから察せられた。

D=2 (75) 家電リサイクル法で規定する。法律の主旨が比較的広く知られている。

E=3 (56) ツバメが人間のよく出入りするところに巣作りをするのは、天敵のヘビやカラスからヒナを守るためである。2と回答した人が目についた。

F=3 (67) 高町池周辺のヒメボタルは毎年5月下旬がピークである。釈迦ヶ池北側にも五月が丘ができる20年前まではホタルがたくさんいた。造成前は佐井寺東公園から吹田市立博物館駐車場までゆるやかな下り水路があり、現在の高町池周辺に似た地形だったと思われる。

G=3 (63) キツネは千里丘の私有地の茂みに現在も棲んでいる。

H=5 (60) クスノキが147本(全体の35%)もあった。クスノキは市民の木として昭和53年(1978)に選定された。

I=1 (77) すいたクワイは江戸時代に吹田の特産物として有名だった。高い正解率だった。すいたクワイは千里南公園と江坂公園で見られる。

J=2 (33) ビール工場はまちなみ賞。北千里ビブレは賞なし。ビール工場と正解した人が多かった。

山田旧集落のよさが理解されていないところに都市景観の行政の課題がありそうだ。(古谷)

黄色の花を見つけて

北千里公民館とすいた市民環境会議が年間を通じて、連続環境講座を開催しています。その一環として5月13日(日)、環境省が提唱している身近な生き物調査の冊子を使用して、北千里地区の黄色に咲く野草とタンポポの分類地図を作りました。今年の生き物調査は、「春に咲く黄色の花を見つけよう」がテーマです。参加者12名でした。

今回は、北千里公民館から青山台公園のグリーンマップを参加者と一緒に作成しました。黄色く咲いていた花は、コメツブツメクサ・ミヤコグサ・カンサイタンポポ・セイヨウタンポポ・ブタナ・マツヨイグサ・ハルノノゲシでした。これらを写真に撮り、後日、調査用紙に貼り付けていくのです。

タンポポ調査は、カンサイタンポポ(在来種)とセイヨウタンポポ(帰化種)を見分けながら、その分布を地図に書き込んでいきました。これは、在来種が自然豊かな場所に生え、帰化種はより都市化が進んだ

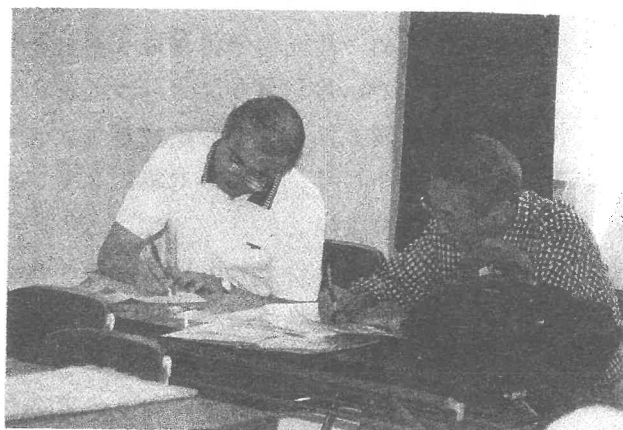
グリーンマップを作ろう

学習・研修委員会 高島耕一郎

所に生えている性質から、タンポポの種類を見分けることによってその地域の自然の豊かさを調べていくことにつながります。

青山台公園でゆっくりと昼食をとり、交流会をしました。午後からはさらに青山台公園を散策し、最後に公民館に帰ってから大きな地図に今日観察したものを色シールで印をつけていきました。

青山台地区の立派なグリーンマップが完成しました。北千里地区公民館に展示される予定です。



学習・研修委員会のスケジュール

北千里公民館連続環境講座

6月17日(日)「もののけ姫と古代製鉄」

2:00PM~4:00 北千里公民館

7月1日(日)「カヌーに乗ってトンボの羽化を見よう」

8:00AM~11:00 水遠池

募集開始6月25日(月)先着20人

北千里公民館で受付

8月5日(日)「みんなで語ろうニュータウンの今昔・環境の変化」

1:30AM~3:30 北千里公民館

9月23日(日)「ごみについて皆で考えよう」

1:00PM~4:00 北千里公民館

10月14日(日)「千里北公園の自然／バットの運動会」

1:00PM~3:30 先着30人 北千里公民館

5月20日 ^{ちか} ^{あす} ^か ^ふ ^ど ^き 近つ飛鳥風土記の丘バスツアー 参加者25名

学習・研修委員会 高畠耕一郎

この企画は、阪口市長が提唱した紫金山風土記の丘整備事業の参考になる施設見学として実施しました。紫金山風土記の丘計画は、市民委員の意見などを参考に策定会議が今年の3月末に市に報告書を提出しました。これから、報告書が具体化されていくのですが、紫金山風土記の丘の具体的な計画に反映できるようになることを願って市民が学習を行いました。すいた市民環境会議も策定に全面的に応援し、団体参加と公募の市民委員にも環境会議のメンバーが数人はいました。

「近つ飛鳥風土記の丘」は、大阪府立の施設で面積は29ヘクタール、この付近に存在していた多数の古墳群102基のうち40基を整備公開して見学できるようにしています。その中心に近つ飛鳥博物館が設置されています。

この日は天気もよく、参加者25名で市役所より出発しました。バス内でお互いの自己紹介を行っている間に現地に着きました。

博物館では、案内の学芸員が大阪弁で設立までの経過をわかりやすくおもしろく伝えてくれました。



「近つ飛鳥」という地名は、712年口述筆記された「古事記」に記載があるらしい。履中天皇の同母弟(後の反正天皇)が、難波から大和の石上神宮に参向する途中で二泊し、その地を名付けるに、近い方を「近つ飛鳥」、遠い方を「遠つ飛鳥」と名付けたというもの。「近つ飛鳥」は今の大阪府羽曳野市飛鳥を中心とした地域をさし、「遠つ飛鳥」は奈良県高市郡明日香村飛鳥を中心とした地域をさすと説明がありました。

さすがに、府立の施設だけあって弥生・飛鳥時代を中心とした展示物もお金をかけてわかりやすく展示がされていました。赤外線を利用したヘッドホンを全員がお借りして館内の展示解説を聞きました。展示で特に印象に残ったのは、直径10mの仁徳陵古墳復原模型です。模型の縮尺は150分の1、築造当時の仁徳陵古墳及びその周辺の中古の古墳、古墳造りのムラなどを再現したものです。



午後は風土記の丘の野外展示場付近で昼食を食べ、その後は風土記の丘全体に広がる古墳群を見学しながら散歩しました。

富田林・寺内町^{じないまち}見学と交流会の報告

— 寺院と町衆が開いた中世の自治都市 —

まちなみ委員会 岡村昇二

1. 寺内町の町並み

(国指定・重要伝統的建造物群保存地区)

近鉄富田林駅より歩いてわずか5分程で、まるで江戸時代にタイムスリップしたような町並みに入りました。本瓦葺き(寺院によくある丸瓦と平瓦を組み合わせた重厚な屋根)と厨子^{つし}二階(二階部分が低い古い造り)、道に面して格子戸をはめた家が軒を連ね、静かな町です。

ここ富田林市の寺内町は、戦国時代の16世紀中頃に造られたものです。侵入した外敵が一気に突入し難いように、「当て曲げ」と言って道路を一直線にしない工夫の跡が残っています。「背割り水路」と言う各戸の背後を走る下水路も当時のまま今もあります。

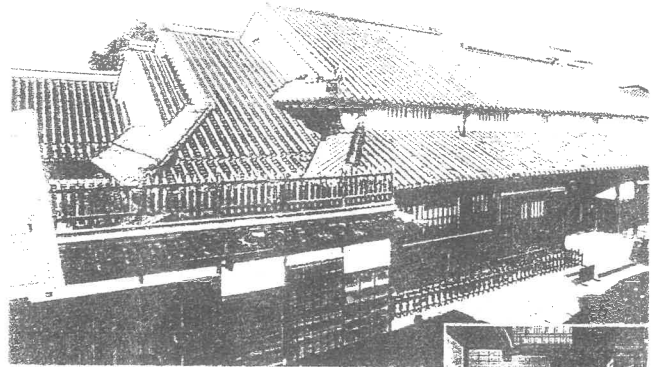
江戸から明治時代にかけては商業の中心として栄え、その頃の豪商の館や蔵をはじめ、一般の商人、職人たちの住居も多く残っているのです。東西、南北それぞれ350mの範囲にある寺内町530戸のうち192棟が江戸から昭和初期までの伝統的日本建築で占めて、落ち着いた雰囲気を保つ貴重な町並みです。

2. 旧杉山家住宅(国指定・重要文化財)

杉山家は、町を代表する名家で、代々造り酒屋を営んできました。建物も一番大きく、豪華なものです。現在、建物は市の所有となり、一般に公開されています。土間・台所部分は17世紀中期と古いもので、増築の奥座敷は華麗な造りとなっています。明治の終わり、与謝野晶子らと共に活躍した明星派歌人・石上露子^{いそのかみつゆこ}はこの家の跡取り娘で、蔵には資料と共に河内一番の美人といわれた彼女の写真が展示されています。

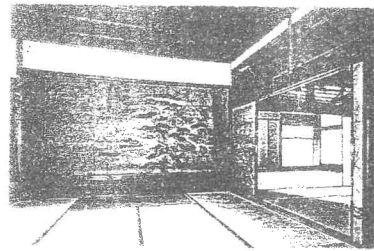
3. 「寺内町を守り育てる会」との交流

会の副会長で、ボランティアガイド部門のリー



歴史の息吹き……瓦屋根

数寄屋造りの奥座敷



おお床ノ間

ダーを務める葎谷氏が対応してくれました。氏の案内で町を見学した後、寺内町センターの会議室で交流会を行ないました。以下は聞き取り内容の報告です。

守り育てる会は、町内530戸の内320戸が加入している。主な成果次の通り。昭和30年に地区内を横断する国道計画があったが、これは撤回させた。平成9年に国の伝建地区の指定を受けるに際して、反対の町民説得に努めた。指定のお蔭で建物修復の費用が国・府・市よりの補助が付き、個人負担は8分の1で済ませることができた。更に固定資産税免除の恩典を受けている。

メイン道路の「城之門筋」の電柱を撤去させた(筆者註:この道は全国道の百選に選ばれた)。道路、公園の整備と景観修復の努力を続けている。

ボランティアガイドは、10人の会員が無償奉仕でやっている。但し、市と育てる会から補助があり、自分たちの会費と併せて運営費用としている。



《 吹田市の鳥 NO.19 》

ヒヨドリ (鶉)

ヒヨドリ科

平(ヒラ) 軍二・山田西

ヒヨドリは留鳥として吹田市周辺に一年中すんでいて、ピーヨ・ピーヨと甲高い声で鳴くので、鳥のことをあまり知らない人でもヒヨドリの声を紹介すると、誰もが「ああ、その鳥の声ならば聞いたことがある」と言われるほど多い鳥である。

ヒヨドリは日本にいる鳥の中ではメジロと並んで花の蜜が好きな鳥で、花の蜜を吸うのに便利な細いくちばし嘴くちばしをしている。サザンカ・ツバキなどは、鳥に花粉を媒介してもらうことで実を結ぶ鳥媒花であるが、花粉の媒介している鳥はヒヨドリで、花蜜を集めるため花～花へ移動する時、顔を花粉で黄色く染めているのが観察できる。また、ヒヨドリは柔らかい果肉を持つ木の実(液果)が好きで、木の実は丸飲みまるのみにされるが、種子はヒヨドリによって遠くへ運ばれ糞と一緒に排出されるので、植物の種子散布に一役を買っている。

ヒヨドリはもともと繁殖期を山ですごし、冬になると里へ下りてきていた鳥であるが、1970年頃から一年中平野部で過ごす鳥が出てきて、今では住宅地や都市公園の樹木や街路樹で普通に巣作りし繁殖しているの、一年中観察できる。

このようにヒヨドリは人の生活環境をうまく活用している鳥であるが、ヒヨドリが季節毎に利用している餌の主なものは下記の通りである。

- 春：ツバキ・サクラなど花の蜜
- 夏：木々につく虫やセミ、サクラなどの実
- 秋：エノキ・ムクノキ・カキノキなどの実
- 冬：ピラカンサ・ナンテンなどの実、サザンカなど花の蜜

なので、千里ニュータウンなど緑の広がる住宅地・公園が絶好の生活の場となっている。

ヒヨドリは体長28cmと幾分大きめで尾の長いスマートな鳥で、全身が黒褐色、飛ぶときの軌跡が波形になるなどの特徴がある。

ヒヨドリは留鳥といえ、北海道など北国で繁殖し冬になると暖地の移動して生活する鳥があるので、春秋の渡りの季節に小規模の渡りを行っている。秋の渡りは9月下旬～10月上旬で、早朝、箕面公園などでタカ渡りを観察していると、数百羽程のヒヨドリの群がピーヨ・ピーヨと鳴き交わしながら次々渡っていくのが観察できる。

ヒヨドリはどこにでもいて騒々しいので日本ではあまり好かれていないが、世界的な分布を見ると日本列島とその周辺の島々にのみ生息している珍しい鳥であるため、ヒヨドリは日本を訪れる欧米のバードウォッチャーが必ず見たい鳥の一種になっている。(01.6.10)



ヒメボタルが乱舞する高町池緑地は田んぼだった

30年前の設計施工時の様子

山田西2丁目と高野台3丁目の境にある緑地で毎年5月中旬から3週間乱舞する。高町池から南東に長さ約600mの緑地だが、この様子が昔から続いているわけでないことが最近わかった。つい30年前の光景はかなり違うものだった。

イラストに描かれたように、造成前の高町池に栈橋のようなものがあった。池は釣り場だった。



現在の地図



約30年前の地形イラスト（「都市と自然」表紙、No. 3、1976年）

航空写真をもとに写實的に描かれている。比較すると田はほとんどが緑地の場所にならなかった。

た。池から南に続く谷底に幅40m足らずの水田が段々で連なっていた。そして、そこにはヘイケボタルの存在が確認されていた。ヒメボタルは調査されなかった。

30年前の山田西2丁目はほとんどが山地であり、谷間に水田があった。ここ一帯を大阪府住宅供給公社が造成して、宅地化

して学校も建てる計画が持ち上がった。供給公社の当初の案は削った山の土砂の捨て場として谷を選び、谷底を5mも盛土して、現在の小中学校と同じ高さに埋め立てるものだった。高野台側の法面は大阪府企業局が管理する緑地で、そこの境に細い小川をつける程度だった。

この提案に対して、西側の高野台の自治会を中心に緑地として残す運動がねばり強く続けられて、設立して間もない大阪自然環境保全協会が調査と基本設計を引き受けた。当時協会の理事だった高

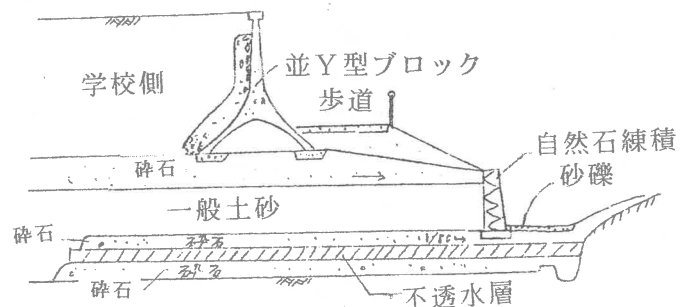
田直俊さん（現在は大阪市立大学土木工学教授、大阪自然環境保全協会・会長）がこの問題に関わった。

結局、緑地として残す部分の盛土は高さ1~2mにした。断面を図で示す。傾斜をつけた不透水層が特徴である。学校側の雨水が緑地に新しく設けた水路にしみ出すようにしてある。ピオトープ状態になることを考慮して設計した。

完成した頃、高田さんは「この工事が完成してから生物環境がどう変わっていくかは今後の興味ある問題であるが、その管理を誰れが何を目標に行なうかが次の新たな心配である。」と記した（よみがえるか？千里の自然「都市と自然」No. 23, p. 3、1978年）。

盛土でカワニナとヒメタニシが死滅したためかヘイケボタルが見られなくなった。その代わりに、ヒメボタルの繁殖地になるとは予想されなかった。

30年間に更地に竹が勢いを伸ばし、ハンノキなどの樹木も大きく育った。樹林の管理が必要になっている。（この記事は、6月3日に西山田地区公民館での



造成工事の断面図

高田直俊先生の講演をもとに古谷がまとめました。）

おとぎの国のお城

まいしま

—新設の大阪市舞洲ごみ焼却場見学記—

岡 村 昇 二 (高野台)

3月27日、私たち6名は2台の車に分乗して、完成後間もない「大阪市環境事業局舞洲工場」の見学に向かいました。本格営業前のユニバーサルスタジオ・ジャパンを横目でみて、人工島・舞洲への大橋を渡り始めると左前方に煙突のある奇妙な大きな建造物が目に飛び込んできました。これが目指す新設のごみ焼却工場ですが、どう見てもお子様向き夢のお城のようで、形は奇抜、色彩は原色をふんだんに使った派手なものです。

建設担当の職員さんに説明と工場内案内をしていただきました。この工場のデザインをしたのは、世界的に有名なアーティストで環境保護派でもあるオーストリア人・フンデルトヴァサー氏でした。建物と自然が融和して人に優しいというのがデザインのコンセプトだそうです。自然界に存在しない直線を極力避け、窓は同じ形のものが無いとのことでした。ベランダ、屋上に芝生や樹木をふんだんに植え、窓から小さな植木が突きでたりと常識破りのものです。独立した高さ120メートルの煙突は、上端が玉ねぎ型で、途中で窓付きの部屋が張り着いていました。

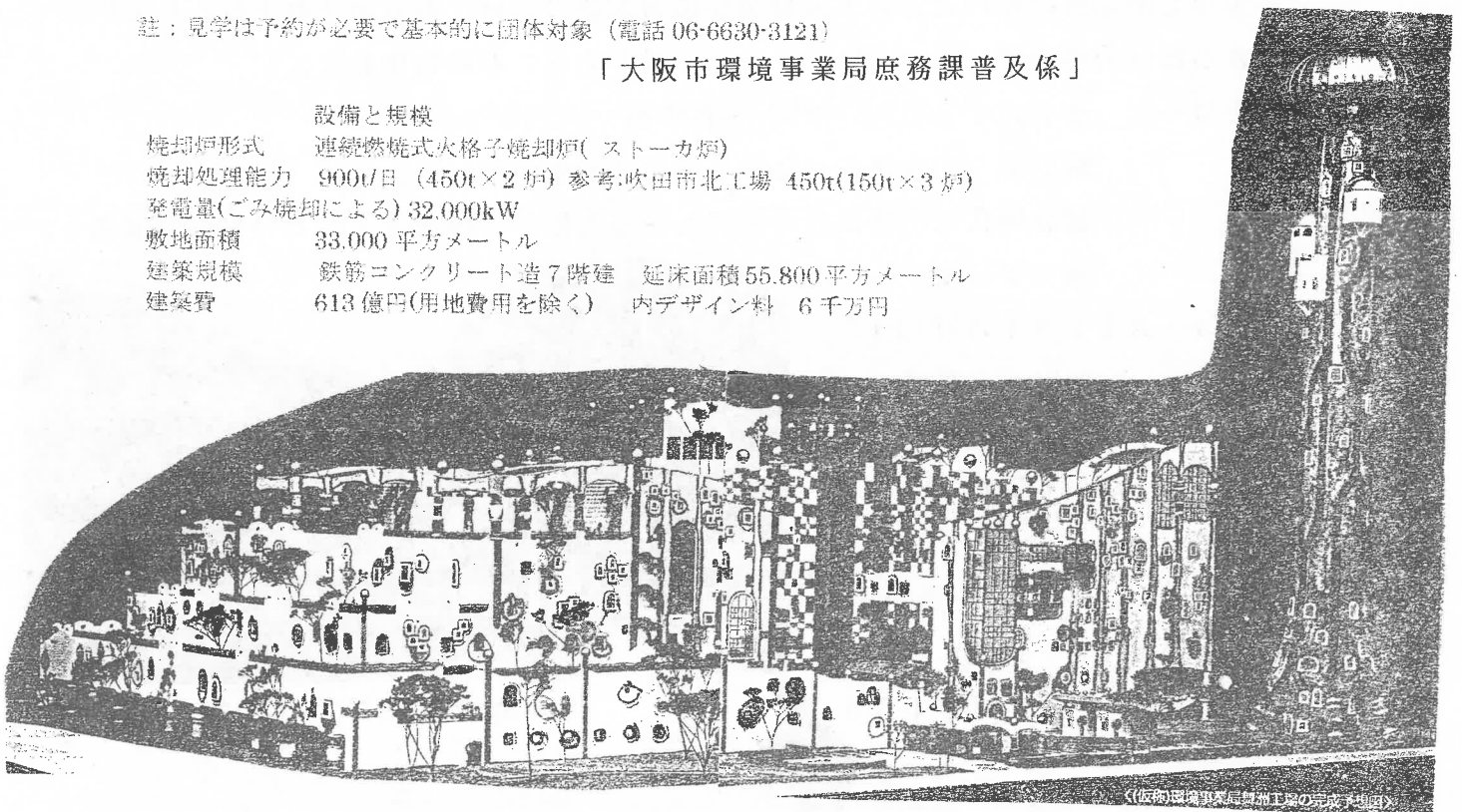
費用も掛かるのに何故このような建物にしたのかを聞くと、この島はスポーツアイランド(筆者注：オリンピックも視野に入れてと思われる)という場所柄を考慮し、ごみ焼却場のマイナスイメージを取り去るためとの答えでした。

この工場の特徴は、町づくりとの調和に配慮して、外部から緑の多いベランダ・屋上に通じる遊歩道が設けられ、一般の人が散策できる点です。設備の特色は、最新の排ガス処理設備によりダイオキシン濃度を押さえている(0.1ng-TEQ/N m³)、またエネルギーの有効利用のため、焼却の熱を蒸気と電気に変えているなどと言うことでした。

注：見学は予約が必要で基本的に団体対象(電話06-6630-3121)

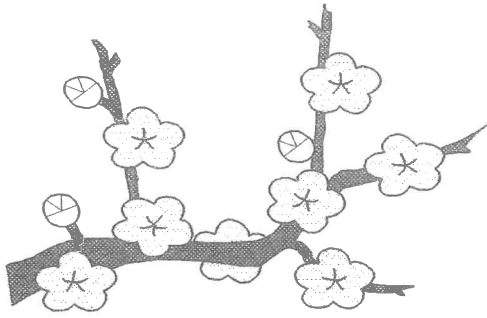
「大阪市環境事業局庶務課普及係」

設備と規模	
焼却炉形式	連続燃焼式火格子焼却炉(ストーカー炉)
焼却処理能力	900t/日(450t×2炉) 参考:吹田市北工場 450t(150t×3炉)
発電量(ごみ焼却による)	32,000kW
敷地面積	33,000平方メートル
建築規模	鉄筋コンクリート造7階建 延床面積55,800平方メートル
建築費	613億円(用地費用を除く) 内デザイン料 6千万円



〈仮称環境事業局舞洲工場の完成予想図〉

会員の瀬屋好治さんからのお知らせです。



淡路島で農業を営む中村さんが梅の木のオーナーを募集しています。年会費5000円で、1本から少ないときでも20kgの収穫ができます。

近くに温泉もあります。

詳しくはTEL 07998-5-1120

中村さんまで。

短信 2000年度の受託事業報告

3月19日、観光マップ「あルック」を吹田市に納入しました。5頁を参照。

4月20日、生き物調査マップを吹田市に納入しました。8頁を参照。

大木委員会の解散

大木委員会（委員長・秋山こずえ、副委員長・浅田都司男）は3月末で解散し、生き物調査委員会（委員長・平軍二、副委員長・小田信子）に合併しました。

「吹田の樹物語」

は前号の18回で終了にしました。筆者の浅田都司男さんには、あルック吹田に収録されなかった「私の好きなスポット」を次号から書いていただくよう準備中です。

あルック吹田の散策シリーズ

関大・千里山コース 7月14日（土）9:30～正午頃

阪急関大前駅南改札前に集合 解散は千里山駅

千里第2小学校の市内最古の木造校舎が図書館建設計画で取り壊されようとしています。できるだけ現在の姿で残せないか、急ぎよ見学することにしました。

佐井寺コース 10月13日（土）9:30～正午頃

阪急南千里改札前に集合 解散は千里山駅

鎌倉時代に山岳仏教の地でもあった佐井寺地域は市内でも特有の家並みが残っています。

北千里コース 11月10日（土）

9:30～正午頃

阪急北千里駅改札前

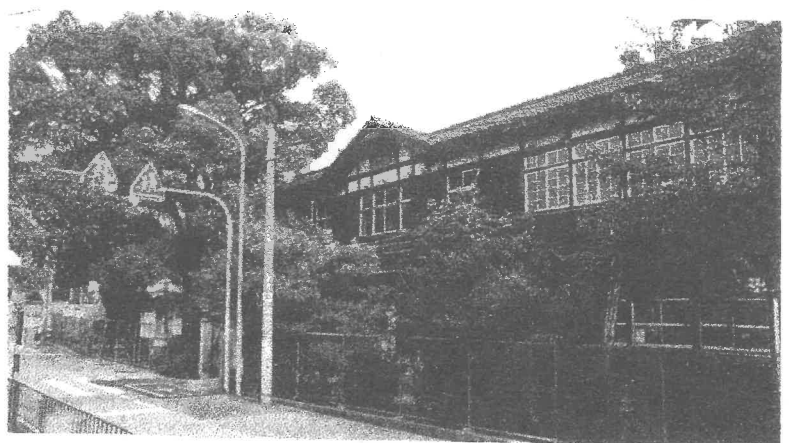
解散も同駅

いずれも小雨決行。

参加費 会員400円、非会員500円

連絡先 松岡 TEL & FAX

06-6384-8168



木造の千里第2小学校校舎

街路樹調査へ協力のお願いと、調査班募集について

★協力のお願

すでにお知らせしましたように、今年、生きもの委員会では吹田市内の街路樹の調査をします。会員の皆様のご協力をお願いします。

- ・街路樹のある場所を教えてください。
- ・街路樹について思っていることを教えてください。

同封の「街路樹調査票」に記入の上、返信用封筒でお送り下さい。

締め切りは7月30日です。

★調査班募集

調査班として参加して下さる方を募集します。

調査はアンケート調査と現地調査です。現地調査の後、まとめをします。

活動は主に土曜、日曜と平日の夜間になりますが、平日の昼間にする作業もあります。すべてに参加できなくても可能です。

下記集合日にお越しください。

日時 7月 20日(金・祝日) 10:00~11:00

場所 吹田市民会館 市民活動支援準備室(5階)

持ち物 筆記用具

レイチェルの人生の足跡をたどる朗読ドキュメンタリー映画/16mm・107分

■■センス・オブ・ワンダー■■ 吹田上映委員会

●2001年9月21日(金) 吹田メイシアター 中ホール

【第一部】15:30開演 ・センス・オブ・ワンダー上映 (開演時間は若干変更する場合があります)

【第二部】18:00開演 押尾^{おしお}コータローのギター演奏に合わせて「千里の四季」のスライドショー

【第三部】19:00開演 ・センス・オブ・ワンダー上映

●入場料 ◆大人・高校大学生 当日券1200円/前売り券1000円

◆小中学生 当日券 800円/前売り券 700円

◆前売り券の発売開始日 未定(7月後半の予定)

郵便局振込先

センス・オブ・ワンダー
上映委員会

00920-5-133815

●お問い合わせ:センス・オブ・ワンダー吹田上映委員会事務局

TEL 090-8375-0647 FAX 06-6386-9491 (中村小夜子)

●映画「センス・オブ・ワンダー」 作品の概要と舞台

<概要> この映画では、レイチェル・カーソンの『センス・オブ・ワンダー』を、日本語版の翻訳者である上遠恵子さんが朗読します。そして、レイチェルが姪の息子ロジャーと探索した森や海辺を歩きながら、その世界を追体験します。レイチェルの「文章」と、映像と、自然の音と音楽とが織りなすこの映画は、いわば「朗読ドキュメンタリー映画」なのです。

<作品の舞台> 撮影は、『センス・オブ・ワンダー』の舞台となったアメリカ・メイン州ブースベイ郊外のウェスト・サウスポート島に現存するレイチェルの別荘とその周辺の森や海辺で、スタートしました。別荘の周囲のトウヒやモミの木の背が高くなっている以外は、あたりの風景はレイチェルがいた当時とほとんど変わっていません。

また、ペンシルバニア州の生家からワシントンD.C.郊外の晩年の家まで、レイチェルの足跡をたどるロケーションも行いました。

(次頁へつづく)

2001年度 会費納入者

2001年1月1日～2001年5月31日入金者（敬称略）

正会員（新入、個人・団体） 木下嘉清、田面郁次、由井昭徳、宮川治樹

正会員（継続、個人・団体） 長坂孟重、岩溪恭子、伊藤勝子、清水由紀子、中土康雄、土志田新八、邑本恵子、加藤俊二、大江尚子、大越好子、小川敏津子、堀節子、喜田久美子、中村小夜子、佐藤和子、黒田悦三、海原登美子、安封久美子、小田忠文、小田信子、本地綏子、田口實、西尾熱子、南田順子、奥山悦男、平山節子、牧野展元、千代延明憲、小林幹生、木村雄次郎、川口雅之、有澤壽子、上田万吉、橋口健一、出原正道、北尾賀永子、岡村昇二、土生陽子、池淵佐知子、巽京子、草野弘靖、秋山こずえ、中尾忍、天野正子、菅原節子、古谷啓伸、小室巧、橋本徹也、松岡要三、水川晶子、佐江木了治、香月利明、長谷川美津代、山本富雄、浅田都司男、笠岡英次、青木タミコ、前屋舗弘之、寺尾恵子、橋本英樹、池田薫、塩田敏治、西川たけお、山上光枝（～02）、木下宏子、竹内美由紀、須賀井やすみ、田中修、田中一子、彦坂利久、山岸貞造、熱田克子（～02）、広村知幸

正会員（継続、法人） 小儀動物病院

購読会員（新入） 武坂静雄、土井唯夫、森邦子、中島康博、片山むつみ、楠元美智子、桧垣美佐枝、勝矢久仁子、佐々木良太、小松孝子

購読会員（継続） 石川信行、西谷文和、瀬屋好治（～02）、岡本悦子、横山正和、小儀賀代、北村英一、梅田茂、浜田政夫、水井賢治、佐々木恵子、山根孝、松田遼、西木勲、成田靖穂、沖原満生、丹羽ミネ子、木村裕、新名貞夫、林捷子、阪口善雄、小松正史、吉田栄司、木田祐子、山下宗一、松岡幹郎、鈴木真世、鈴木とみ子、栗木祐子、武田ゆき子、北村正子、赤堀栄子、太田英子、二上正子、河面亮、藤原博史、平野寿美子

5月31日現在の会員数 正会員（個人・団体）120人 正会員（法人）8社 購読会員127人 賛助会員0人

入金済みであっても、まだ未入金だと勘違いして2回入金される方がいます。その場合は翌年の会費として処理させていただいています。前記の（～02）は2002年度分まで入金済みです。

封筒の宛先ラベルに入金済みの年度を記入してありますので、ご確認ください。

会員の種類、会費金額、郵便振込先は表紙の題字下に掲載しています。会員の種類の変更の場合は、会計（喜田TEL06-6330-0305＝夜のみ FAX06-6330-0376＝終日受信）までお知らせいただくか、会費振込時にその旨記入してください。

●レイチェル・カーソンと著作の紹介（前頁からつづく）

レイチェル・カーソンは、1907年に米国ペンシルバニア州に生まれ、幼いころから自然に興味を抱き、巻き貝の貝殻を耳にあててまだ見ぬ海の音を想像していました。

ペンシルバニア女子大で生物学を学び、家計を助けるために米国魚業局（のちの魚類野生生物局）の公務員となりました。魚業局の広報誌の執筆・編集にたずさわるうちに雑誌にエッセイ「海の中」を掲載する機会を得、これをふくらませて『潮風の下で (Under the Sea Wind)』を発表。次いで、『われらをめぐる海 (The Sea Around Us)』がベストセラーとなり、文筆活動に専念するようになりました。

友人からの一通の手紙をきっかけに、当時広く使用されていたDDTをはじめとする殺虫剤、除草剤、その他の化学物質が環境や生物に世代を超えて与える影響を告発した『沈黙の春 (Silent Spring)』の執筆にとりかかります。執筆中に癌に冒され、死期が迫っていることを知りながら4年の歳月をかけて完成した本書は、「歴史を変える1冊」となったのです。死に際してもそれを自然の営みとして静かに受け入れ、1964年メリーランド州シルバースプリングの自宅で56歳の若さで世を去りました。

本号は7月7日までに配達を完了する予定です。遅配された場合は古谷（☎06-6387-2139）まで連絡をいただくようお願いいたします。前号21号は4月7日までに配達しましたが、届いてない方も連絡をお願いします。21号の表紙は藤白台のピアノ池の写真で飾りました。

23号は9月30日（日）に市民会館NPO室で製本と封筒詰めをおこないますので、お手伝いをお願いします。

編集後記

編集が終わったところで、吹田ケーブルテレビが制作した「吹田のキツネ」が日本ケーブルテレビ最優秀賞を受賞したというニュースが飛び込んできた。近隣のケーブルテレビやNHKが放送するという。吹田のキツネですまなくなった。保護の行方に全国の目が集まる。（古谷）